

# 平成30年度 全国学力調査分析 小松川第二中学校〈国語〉

## 1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	全国平均 (%)	本校平均 (%)
話すこと・ 聞くこと6	A1一	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	89.3	87.4	90.5
	A6一	話合いの話題や方向を捉える	75	72.4	73.7
	A6二	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	66.8	65.8	66.4
	B2一	質問の意図を捉える	88.5	86.8	89.1
	B2二	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	88.6	88.3	94.9
	B2三	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	56.9	54.6	58.4
	話すこと・聞くこと			77.517	75.883
書くこと4	A2一	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する	90.4	89.5	86.1
	A2二	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く	62.3	64	61.3
	A4一	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する	66.7	62.8	75.9
	A4二	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする	81.7	79.4	83.9
	書くこと			75.275	73.925
読むこと9	A3一	文脈の中における語句の意味を理解する	89.4	88.2	89.1
	A3二	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	85.2	82.8	86.1
	A5一	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる	78.3	76.3	80.3
	A5二	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	60.7	59.5	70.1
	B1一	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える	48.8	45.9	57.7
	B1二	文章の構成や展開について自分の考えをもつ	69	64.3	74.5
	B1三	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	14.2	13.3	14.6
	B3一	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	82.6	80.2	85.4
	B3二	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる	71.6	68.2	77.4
読むこと			66.644	64.3	70.578
伝統的な 言語文化と国語 の特質に 関する事 項22	A7一	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える	88	87.3	87.6
	A7二	接続詞の働きについて理解する	89.2	88.4	90.5
	A8一1	文脈に即して漢字を正しく書く(紙をひもでタバねる)	79.8	79	83.2
	A8一2	文脈に即して漢字を正しく書く(舞台のマークが上がる)	74.4	72.9	76.6
	A8一3	文脈に即して漢字を正しく書く(先制点をユルす)	72.2	71.4	73
	A8二1	文脈に即して漢字を正しく読む(模型を作る)	95.1	95.7	94.9
	A8二2	文脈に即して漢字を正しく読む(池の水が凍る)	97.3	97.8	95.6
	A8二3	文脈に即して漢字を正しく読む(技を磨く)	97.6	98.1	96.4
	A8三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(立場の異なる両者の主張は終始一貫して変わらず、最後まで結論が出なかった)	80.8	77.7	86.1
	A8三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(魚の中には群れを作って泳ぐ習性をもつものがある)	91.8	91	94.2
	A8三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(先生が私たちに大切なことをおっしゃった)	87.5	88	93.4
	A8三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(彼はせきを切ったように話し始めた)	31.8	29.2	45.3
	A8三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(意見の折り合いをつける)	64.7	61.8	71.5
	A8三カ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(わたしが健康になったのは、ひとえに母のおかげです)	67.6	65.4	67.2
	A8三キ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。一方、妹は一人で本を読むことが好きだ)	94.9	95.2	94.2
	A8四1	慣用語の意味を理解する(心を打たれる)	94.5	94.7	92
	A8四2	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く	23.7	22.3	17.5
	A8五	行書の基礎的な書き方を理解して書く	56.3	54.4	66.4
	A8六1	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える(いはく)	90.5	91.1	89.1
	A8六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む(とほざざるなし)	52.8	63	48.2
	A8六3	古典に表れたものの見方や考え方を理解する	82	81.3	75.9
	B3三	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	50.3	49.2	45.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			75.582	75.223	76.55

## 2. 結果に対する課題と改善策

### 〈カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策〉

#### ○話すこと・聞くこと

カテゴリー全体では、全国平均、都平均を共に上回った。今年度は特に、「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」が優れている。これからも「論述・記述の構成に関する演習や話し合い及び発表の機会を増やして学力の向上に努める。

#### ○書くこと

カテゴリー全体では、全国平均、都平均を共に上回った。これは上記「○話すこと・聞くこと」と同じ傾向で、今年度は特に「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する」が優れている。ただし、「伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く」をより向上していけるように、論述・記述の構成に関する演習を継続する。説明的文章の論理的展開を読み取る学習や作文指導を具体的に実施する。

#### ○読むこと

今年度は、カテゴリー全体で全国平均、都平均共に大きく上回った。学校全体で朝読書など、読書指導に力を入れてきており、文章を読むことそのものへの抵抗感が低い。そうした普段の習慣と授業での読解学習が奏功していると思われる。今後は、さらに様々なジャンルの文章を意識して読むように指導を継続していく。

#### ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

カテゴリー全体では、全国平均、都平均共に上回った。特に、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」で優れている。しかし、語句によってはその意味を正しく理解し、使いこなせていないものもある。上記の「○読むこと」にも通ずるが、様々なジャンルの文章を読む指導を増やしていく。また古典に関しても、さらに多くの作品に触れる機会を増やしていく。

### 【まとめ】

#### ①既習事項定着のための工夫

文法事項や語彙力、文章作成能力等、一度学習し獲得した能力の定着を図る。教科書のみならず、ワークシート、自作プリント、確認テスト等での演習を行う。また、その内容を定期テストにも出題することにより、復習する機会を与える。

#### ②言語能力の復習、確認の徹底

国語力の基礎となる部分。既習の漢字であってもそれを使いこなせるまでには用例の反復練習が必要となる。定期的な作文指導や問題演習を実施し、また、読書指導の中で語句の理解を深めさせ、言語能力の定着・向上を図る。

#### ③個別指導の充実

書くことについての能力や語彙の定着については、個人差が多いと感じられる。そこで論述・記述の構成を身に付けさせるためには、個々人が取り組んだものを使った添削指導が必要となる。生徒個人に合わせた具体的な個別指導をより充実させていくことで、話したり書く際に効果的に伝える能力の向上を図る。